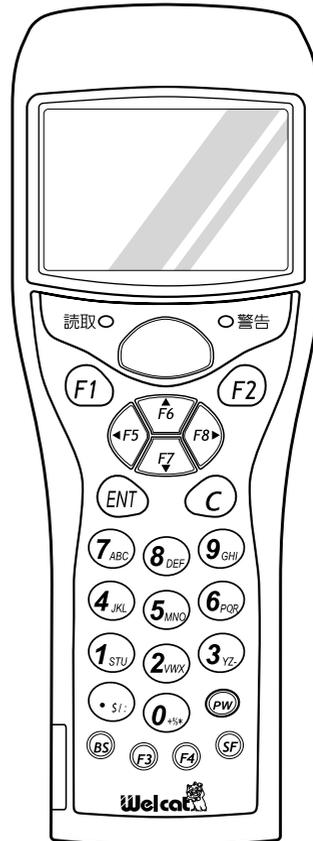


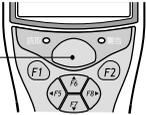


ユーザーズマニュアル

ハンディレーザーリーダー HLT-700-02 標準アプリケーション



表記上の注意

	参照事項を表わします。
	注意事項を表わします。
「HLT-700-02」	バーコードリーダー本体を表わします。
「光通信ユニット (HIF-51)」	HLT-700-02 と PC の通信インターフェースです。別途ご購入ください。
「Welpack-H」	パラメータ設定用ソフト「Welpack-H」を指します。別途ご購入ください。
「Welfer II for Windows」	ファイル転送プログラム「Welfer II for Windows」を指します。別途ご購入ください。
「標準アプリケーション」	出荷時に HLT-700-02 に搭載され、さまざまな業務への幅広い対応を可能にするプログラムを指します。
「システムプログラム」	HLT-700-02 に搭載されている、OS を指します。
「システムメニュー」	システムプログラムの機能の一部を指します。
「ドライブ S」	データファイル、パラメータファイルなどを格納するための領域を指します。
「ドライブ F」	アプリケーション、データベースマスターファイルなどを格納するための領域を指します。
「バッテリーカートリッジ」	HBC-51 を表わします。別途ご購入ください。
「読取キー」	<p>バーコードを読取るときに押します。</p> 
「テンキー」	①～⑨、⑩のキーを表わします。
「デジチェーン」	光通信ユニット (HIF-51) 同士を、専用ケーブルを使用して複数台接続することを表わします。
「カーソル」	HLT-700-02 の画面上で、次に入力するデータの位置を示す目印を指します。
「BOX」	入力されたデータ 1 つ 1 つを指します。データの入れ物に例えて BOX (箱) と呼びます。

目次

表記上の注意	i
目次	ii
はじめに	v
本書の構成	vii

第 1 章 標準アプリケーションを使ってみよう

1-1 はじめに	1-2
1-1-1 使用前の準備	1-2
1-1-2 データ通信について	1-2
1-1-3 周辺ソフトウェアについて	1-3
1-2 操作の流れ	1-4

第 2 章 標準アプリケーションの概要

2-1 標準アプリケーションとは	2-2
2-2 標準アプリケーションとデータの格納場所	2-4
2-3 メモリバックアップ期間について	2-5
2-3-1 ドライブ S のデータについて	2-6
2-4 標準アプリケーションのファイル構成	2-7

第 3 章 操作編

3-1 使用前のご注意	3-2
3-2 標準アプリケーションの操作	3-3
3-2-1 標準アプリケーションの起動と終了	3-3
3-3 キー操作	3-4
3-4 バーコードの入力	3-5
3-4-1 読取キーを使用したバーコードの入力	3-5
3-4-2 テンキーを使用したデータの入力（マニュアル入力モード）	3-6
3-4-3 確定する前のデータを修正、削除する	3-7
3-4-4 確定したデータを削除する	3-7
3-5 データの格納について（～.DAT ファイル）	3-8
3-5-1 レコードと BOX	3-8
3-5-2 STD_PRM.DAT ファイル	3-9
3-6 入力したデータの確認	3-10
3-6-1 ステータスの表示	3-10
3-6-2 レコードの確認、削除	3-11
3-7 F2キーを使用したファイルの送信	3-12
3-8 F3キーによる固定データBOXの更新	3-14
3-9 F4キーによるバックライトの点灯	3-15
3-10 標準アプリケーションのカスタマイズ 「Welpack-H」	3-16
3-10-1 Welpack-H の概要	3-16

3-10-2	パラメータファイルの作成	3-18
3-10-3	パラメータファイルの送信準備	3-19
3-10-4	複数 BOX 設定での特殊操作	3-20

第 4 章 標準アプリケーションの設定

4-1	はじめに	4-2
4-1-1	設定モードの表示	4-2
4-2	設定モード一覧	4-3
4-3	設定モードの操作	4-4
4-4	動作モードの設定	4-5
4-4-1	入力切替	4-5
4-4-2	レコード確認	4-6
4-4-3	パイプ	4-7
4-4-4	トリガー	4-8
4-4-5	パワーセーブ	4-9
4-5	データファイル	4-10
4-5-1	データファイルの送信	4-10
4-5-2	データファイルの受信	4-12
4-5-3	データファイルの削除	4-15
4-6	パラメータ	4-16
4-6-1	起動パラメータ	4-16
4-6-2	パラメータの切り替え	4-17
4-6-3	パラメータの受信	4-18
4-6-4	パラメータの削除	4-20
4-7	パラメータメニューの階層化	4-21
4-7-1	パラメータリストの作成	4-22
4-8	システム	4-25
4-8-1	システムメニュー	4-25
4-8-2	オートパワーオフ	4-26
4-8-3	バックライト	4-27
4-8-4	レーザー	4-28
4-8-5	バージョンの確認	4-29

第 5 章 FAQ 編

5-1	FAQ (よくある質問と回答)	5-2
	Q: 電源が入らない	5-2
	Q: 画面に何も表示されない	5-2
	Q: しばらく操作を中断したら、電源が OFF になった	5-2
	Q: 読取キーを離してもレーザーがしばらく照射されている。 読取キーを押してもレーザーがすぐ消えてしまう。	5-2
	Q: 「MANUAL」入力モードで、アルファベットを入力したい	5-3

Q : F4 キーを押しても、バックライトが点灯しない.....	5-3
Q : 現在、いくつかのデータを入力したか確認したい.....	5-3
Q : データ通信ができない.....	5-3
Q : ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された.....	5-4
Q : ファイルの送受信中に「タイムアウトしました」と表示された.....	5-4
Q : 「アプリケーションエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった...	5-4
Q : 「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった.....	5-5
Q : 画面に「電池を交換してください」と表示された.....	5-5

付録 データ入力用バーコード

付録 データ入力用バーコード.....	付録-2
---------------------	------

索引

はじめに

この度は HLT-700-02 をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

このユーザーズマニュアルは HLT-700-02 に搭載されている、標準アプリケーションについて説明するものです。

お客様の業務の効率化に HLT-700-02 がお役に立てれば幸いに存じます。

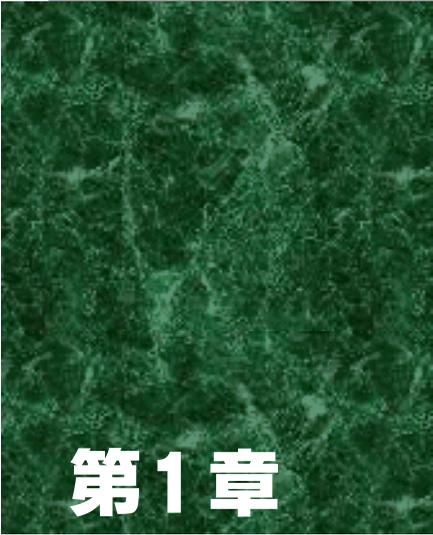
● HLT-700-02 のマニュアル構成

HLT-700-02 のマニュアルは全部で 2 冊あります。

HLT-700-02 標準アプリケーション (本書)	HLT-700-02 に標準搭載されているプログラム (標準アプリケーション) についてのマニュアルです。各種機能の設定、操作方法について説明します。ご使用の際は、お手元に置かれることをおすすめいたします (標準アプリケーションを使用しない場合は、本書は不要です)。
HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー	HLT-700-02 が持つ基本的な機能や、操作方法についてのマニュアルです。IrDA、RS232C 通信をする上で必要な設定や操作、HLT-700-02 の基本的な設定を行うシステムメニューについて説明します。

本書の構成

第 1 章 標準アプリケーションを使ってみよう 標準アプリケーションのクイックガイドです。	第 1 章
第 2 章 標準アプリケーションの概要 標準アプリケーションの概要について説明します。	第 2 章
第 3 章 基本操作 標準アプリケーションの操作方法を説明します。	第 3 章
第 4 章 設定 設定メニューの操作方法や設定項目について説明します。	第 4 章
第 5 章 FAQ よくあるご質問と対処方法を説明します。	第 5 章
付録 データ入力用バーコード	付録



第1章

標準アプリケーションを使ってみよう



1-1 はじめに

このたびは、HLT-700-02 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
この章では、HLT-700-02 と標準アプリケーションを使用前の準備からデータの読取り、ホストコンピュータに送信 (IrDA) するまでの流れを簡単に説明します。詳細については、本マニュアル第2章以降をご覧ください。

1-1-1 使用前の準備

標準アプリケーションを使用するには、次の準備が必要です。

●バッテリーカートリッジ (HBC-51) (別売り)

HLT-700-02 の起動に必要です。充電されたバッテリーを装着してください。



バッテリーカートリッジ (HBC-51) についての詳細は、「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

1-1-2 データ通信について

標準アプリケーションでは、入力したデータをホストコンピュータに送信したり、ホストコンピュータからデータを受信することができます。

ホストコンピュータとの接続には、次の2つの方法があり、使用環境に応じて必要な準備を整えてください。

接続方法	必要なもの	
ホストコンピュータの RS232C コネクタと直接接続	PC 接続用ケーブル (HOP-C031) を別途ご購入ください。	詳細は、「ハードウェア / システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。
ホストコンピュータを光通信ユニット (HIF-51) に接続して IrDA 通信	光通信ユニットと HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) を別途ご購入ください。 また、光通信ユニットをダイジューチェーンで使用する場合は、ダイジューチェーン接続用ケーブル (STP-C001A) をご購入ください。	

1-1-3 周辺ソフトウェアについて

ホストコンピュータとのデータ通信や、標準アプリケーションで使用するパラメータファイルのカスタマイズには、次のソフトウェアが別途必要です。

プログラム	用途・準備	参照
Welfer II for Windows (別売り)	ホストコンピュータとのデータ送受信に必要です。 データ通信を行う前に、ホストコンピュータ側に、「Welfer II for Windows」をインストールしてください。	「ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアル、またはソフトウェア付属のマニュアルをご覧ください。
Welpack-H (別売り)	パラメータファイルの受信および、標準アプリケーションのカスタマイズの際に必要です。 ホストコンピュータ側に、「Welpack-H」をインストールしてください。	「3-10 標準アプリケーションのカスタマイズ」「Welpack-H」(P.3-16)、またはソフトウェア付属のヘルプをご覧ください。



詳しい通信設定の方法に関しては、「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。



HLT-700-02 標準アプリケーション用パラメータ設定ソフトウェアである「Welpack X for ELT」および「Welpack-H」は、標準アプリケーションの全てのバージョンでお使いいただけます。

ただし、標準アプリケーション Ver. 1.10 以降のみ有効な機能についてカスタマイズしたい場合は、「Welpack-H」が必要です。



Welpack X for ELT で作成し、既に子機にダウンロードして動作用に変換されたパラメータ (拡張子は『.PMD』) を、標準アプリケーション Ver. 1.10 以降で使用する場合には、パラメータをダウンロードして変換し直す必要があります。

1-2 操作の流れ

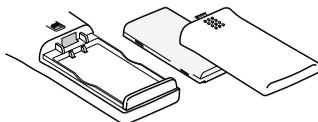
1 使用前の準備

次のものが揃っているか、確認します。

- ・ HLT-700-02本体
- ・ バッテリーカートリッジ (HBC-51 : 別売り)
- ・ 充電器 (HQC-51/54 : 別売り)
- ・ 光通信ユニット (HIF-51 : 別売り)
- ・ HIF-51 PC接続用ケーブル (WRS-AXC003A : 別売り)
- ・ ファイル転送プログラム「Welfer for Windows」(別売り)

ファイル転送プログラム「Welfer for Windows」をホストコンピュータにインストールします。

バッテリーカートリッジを充電して、HLT-700-02に装着します。



➡ P.1-2 または、「ハードウェア/システムメニュー」参照

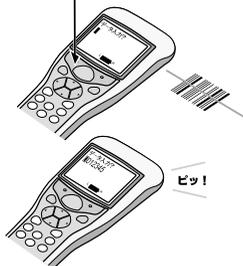
2 バーコードの読み取り

HLT-700-02の電源をONにします。

パラメータ選択画面が表示されます。標準パラメータが選択されているので **ENT** キーを押します。

「データ入力？」と表示されたらバーコードを読み取ります。

①読み取りキーを押す

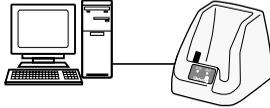


<パラメータ選択>
標準パラメータ

➡ P.3-3
P.3-5 参照

3 データ通信の準備

光通信ユニット（HIF-51）とホストコンピュータを正しく接続し、光通信ユニットの電源をONにします。

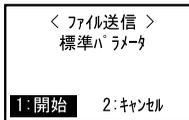


ホストコンピュータ側で「Welfer for Windows」を起動します。

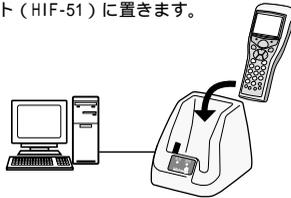
▶ P.1-2 または、「ハードウェア/システムメニュー」参照

4 データ通信

HLT-700-02の (F2) キーを押すと、ファイル送信画面が表示されます。

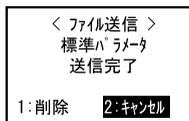


「1: 開始」を選択して (ENT) キーを押すと、送信準備画面になります。HLT-700-02を光通信ユニット（HIF-51）に置きます。



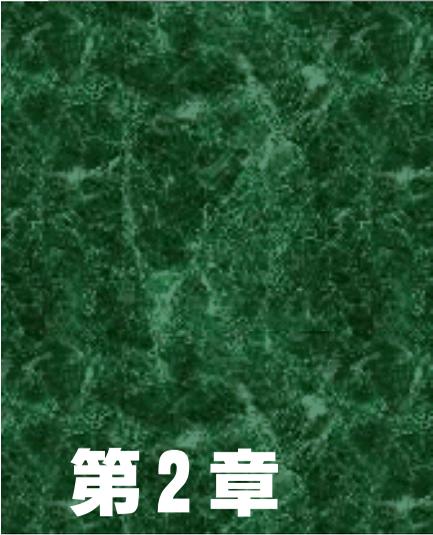
送信完了と表示されたら、送信終了です。

「2: キャンセル」を選択して (ENT) キーを押すと、入力待ち画面に戻ります。



▶ P.3-12・4-10 参照

※ホストコンピュータに送信されたデータについては、P. 3-8 をご覧ください。



第2章

標準アプリケーションの概要



2-1 標準アプリケーションとは

標準アプリケーションは、通常の使用で想定されるユーザーの業務処理を行えるよう、設計されたアプリケーションプログラムです。

出荷時に HLT-700-02 に搭載されており、HLT-700-02 の電源を入れると自動的に起動するように設定されています。

標準アプリケーションでは、主に次の操作や設定が可能です。

バーコードの入力方法の切り替え

(読取キーを使用/テンキーを使用するマニュアル入力)

入力したデータの確認

バイブ機能の有無の切り替え

データの送受信および削除

起動パラメータの設定

パラメータファイルの切り替え、受信、削除

システムメニューの起動

オートパワーオフの設定

バックライト点灯の設定

レーザー照射時間の設定

バイブ機能の有無の切り替え

標準アプリケーションとシステムプログラムのバージョン情報の確認

以下の機能は標準アプリケーション Ver. 1.10 以降で操作が可能です。

- ・トリガ機能の切り替え
- ・パワーセーブモードの切り替え
- ・データの履歴参照、レコード削除

一部の操作を行うためには、別途通信機器やプログラム（別売り）が必要になります。

データの送受信 を行う場合	-IrDA 通信の場合－ 光通信ユニット (HIF-51) HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) デイジーチェーン接続用ケーブル (STP-C001A)	P. 4-10
	-RS232C 接続の場合－ PC 接続用ケーブル (HOP-C031) ファイル転送プログラム 「Welfer II for Windows」	
パラメータの受信 を行う場合	「Welpack-H」	P. 4-18

標準アプリケーションは、「Welpack-H」（別売り）を使用することで、さらにカスタマイズすることができます。

■ システムメニューについて

HLT-700-02 の基本的な動作設定やアプリケーションプログラムのインストール、データファイルの転送などは、システムメニュー（P. 4-25）で行います。



システムメニューについての詳細は、「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

2-2 標準アプリケーションとデータの格納場所

HLT-700-02 にはデータを格納する領域として、ドライブ S とドライブ F の 2 つのドライブがあります。

標準アプリケーションはドライブ F に格納されています。

ドライブ	データ保持	用途	最大保存数
ドライブ S	●揮発性メモリ バックアップバッテリーが無くなった後は、ドライブの内容が失われます。	●データ 頻繁に書き換えが行われるファイルを格納する領域として適しています。	32 ファイル
ドライブ F	●不揮発性メモリ バックアップバッテリーが無くなった後も、ドライブの内容は保持されます。	●プログラムなど アプリケーション、データベースマスターファイル等書き換えの起こらないファイルを格納するための領域として使用します。	24 ファイル



各ドライブのメモリバックアップの期間については、「2-3 メモリバックアップ期間について」(P. 2-5) をご覧ください。



標準アプリケーションを削除してしまった場合に備えて、あらかじめコンピュータ等に標準アプリケーションのバックアップを取っておくことをおすすめいたします。

2-3 メモリバックアップ期間について

メモリバックアップ期間は3ヶ月です。

HLT-700-02 には、バッテリーカートリッジの他に、HLT-700-02 の内蔵時計やドライブ S に保存されているデータの保持のために、バックアップ用電池が内蔵されています。

メモリバックアップ期間とは、このバックアップ用電池が満充電から完全に消耗するまでの期間のことです。

バッテリー	バッテリーカートリッジ	バックアップ用電池
		別売り
用途	HLT-700-02 の起動に必須	HLT-700-02 の内蔵時計やドライブ S に保存されているデータの保持
充電時間	2.5 時間 ※専用充電器 (HQC-51) 使用	HLT-700-02 に満充電のバッテリーカートリッジを装着し充電操作開始後、約 2 日
使用可能期間 (満充電時)	約 30 時間	バッテリーカートリッジの完全消耗から 3 ヶ月
使用上の注意	3 ヶ月以上充電しない場合、電池が劣化して、使用できなくなる恐れがあります。3 ヶ月に 1 回程度充電を行うようにしてください。	バッテリーカートリッジが完全に消耗している状態、または取り外したまま HLT-700-02 を 3 ヶ月以上放置すると、バックアップ用電池も消耗し内蔵時計の情報やドライブ S に保存されていたデータは消失します。3 ヶ月に 1 度は満充電されたバッテリーカートリッジを使用して、バックアップ用電池の充電を行ってください。



バックアップ用電池の消耗により消失したデータは、復元できません。データ保持のためには、3 ヶ月に 1 度は満充電されたバッテリーカートリッジを HLT-700-02 に装着してください。

メモリバックアップの期間は温度等の周囲環境で大きく変り、0℃以下の場所もしくは 40℃以上の場所で保存すると、バックアップ期間が急激に短くなります。バッテリーは、室温での使用をおすすめします。

2-3-1 ドライブSのデータについて

HLT-700-02 にはファイルを保存する領域として、ドライブS とドライブF の2つのドライブを持っています。

ユーザーによって入力されたデータはドライブS に保存されます。ドライブS は、揮発性のドライブのため長期間充電を行わずに放置しておくとも内容が消失してしまうことがあります。ドライブS のメモリバックアップの期間は、バックアップ用電池が満充電の状態から、約3 ヶ月を目安としてください。



標準アプリケーションはドライブF に保存されています。ドライブF は不揮発性のため、保存内容はバッテリーが完全に消耗しても消失することはありません。

■保守に際してのご注意

HLT-700-02 の修理・点検の際にはすべての初期化を行いますので、あらかじめご了承ください。標準アプリケーションについては再インストールしてご返却いたしますが、お客様で作成されたファイルは再インストールできませんのでご注意ください。お客様で作成されたファイルはバックアップを取っておくことをお勧めします。

2-4 標準アプリケーションのファイル構成



- 
F:HLT700S.OUT 標準アプリケーションの実行ファイル
 標準アプリケーションは、HLT-700-02に標準搭載されています。標準アプリケーションは、パラメータファイルの設定に基づいて動作しますので最低でもパラメータファイルが1つ必要になります。
 - 
F:HLT700S.LST パラメータリストファイル
 複数のパラメータが格納されている場合、それらを階層化して表示、選択するための情報が記述された、テキスト形式のファイルです。使用環境に応じて、ユーザーによって作成、格納されるファイルです。標準アプリケーションに対し1ファイルのみ作成することができます。
 - 
S:HLT700S.INI 初期化ファイル
 標準アプリケーションの起動時に作成されます。初期化情報を保存するためのファイルです。標準アプリケーションに対し1つの初期化ファイルが作成されます。このファイルを消してしまうと、標準アプリケーションの初期化情報が消えてしまうため、正常に動作しないことがあります。このファイルは削除しないでください。
 - 
S:STD_PRM.PMD 標準パラメータファイル
 HLT-700-02内にパラメータファイルが存在しないときに作成されます。基本的な機能が設定されたパラメータファイルです。不要なときは削除しても構いません。
 - 
S:STD_PRM.DAT 標準データファイル
 標準パラメータファイルを使用時に、データを確定したときに作成されます。データを保存するためのファイルです。不要なときは削除しても構いません。
- 以下のファイルは、『WeIpack-H』で作成することができます。
- 
S:~.PMD ユーザーパラメータファイル
 拡張子が.PMDであればファイル名は8バイト以下において任意です。業務に応じて複数パラメータファイルを作成して、ドライブSに格納することができます。
 - 
S:~.DAT ユーザーデータファイル
 拡張子を含めてファイル名は任意です。パラメータファイルにデータファイル名が設定されていない場合、パラメータファイル名の拡張子を.DATに変えたものをデータファイル名とします。

※ファイル名の表記＝「ドライブ名：ファイル名.拡張子」



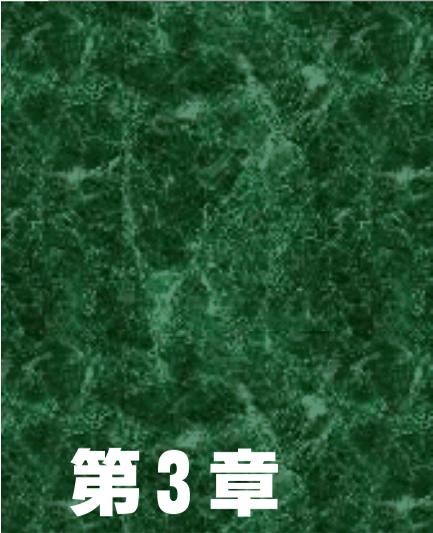
初期化ファイル、パラメータファイル、データファイルは HLT-700-02 のドライブ S に保存されます。

このドライブ S にはファイルを 32 個まで保存することができます。標準アプリケーションを起動する際に、使用するパラメータファイルに対応したデータファイルがドライブ S に存在しない場合、データファイル 1 個分の余裕をドライブ S に残した状態にしておいてください。

■ ファイル名について

HLT-700-02 で使用できるファイル名には、以下の制限があります。

ファイル名	1～8 バイトの長さで、アルファベット (A～Z)、数字(0～9)、一部の記号 (!#%&' ()@`_{}~) を任意に組み合わせて使用することができます。全角文字は使用できません。
拡張子	1～3 バイトの長さで指定してください。拡張子を省略することもできます。使用できる文字はファイル名と同じです。拡張子を指定する場合は、ファイル名との間に「.」が必要になります。 「.OUT」という拡張子のファイルをアプリケーションとして認識します。 「.FNV」という拡張子のファイルをフォントファイルとして認識します。



第3章

操作編



3-1 使用前のご注意

- ご使用前に、必ず次のことを確認してください。

バッテリーカートリッジ (HBC-51) は正しく装着されていますか？	HLT-700-02 を使用する際には、必ずバッテリーカートリッジ (HBC-51) を、別途ご購入ください。また、ご購入されたバッテリーは、必ず充電してからご使用ください。
読取口は汚れていませんか？	読取口が汚れていると、バーコードを正しく読取ることができません。

- ご使用中は、必ず次のことに注意してください。

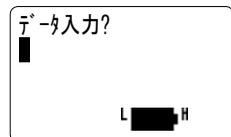
アプリケーションが起動しているときに、バッテリーカートリッジ (HBC-51) を外さないでください。	データの消失や故障の原因になります。
光通信ユニット (HIF-51) に、HLT-700-02 を置いたまま操作していませんか？	HLT-700-02 は、必ず手に取ってご使用ください。

3-2 標準アプリケーションの操作

3-2-1 標準アプリケーションの起動と終了

操作手順

- ① **[PW]** を1秒ほど押して HLT-700-02 の電源を ON にします。
出荷時設定では、「標準アプリケーション」が起動するように設定されています。
- ② 標準アプリケーションが起動すると、右の画面が表示されます。
[ENT] キーを押して標準パラメータ (P. 2-7、4-16) を選択します。
- ③ パラメータ選択後は、標準パラメータのデータ入力待ち画面 (右の画面) になります。この画面で、読取キーを押してバーコードを入力 (またはテンキーによるマニュアル入力) すると、読取ったデータが表示されます。
- ④ **[PW]** を1秒ほど押すと電源が OFF になります。



HLT-700-02 を、光通信ユニット (HIF-51) に置いたまま操作しないでください。光通信ユニットが倒れたり、光通信ユニットから HLT-700-02 が落下したり、故障の原因となります。

3-3 キー操作

標準アプリケーションで使用するキー操作は次のとおりです。

キー	機能	参照ページ
(PW)	電源 ON・電源 OFF	P. 3-3
読取キー	バーコードの読取り	P. 1-4、3-5
(ENT)	入力または選択したデータや項目の確定	P. 3-6、4-4
(C)	入力または選択したデータや項目のキャンセル。 バーコードのマニュアル入力中のデータ削除。 設定モード内で、1つ前の画面に戻る。	P. 3-6、4-4
(SF)	shift キー (SF) キー+テンキー=アルファベットの入力 (SF) キー+ファンクションキー=特殊機能 (下記参照)	P. 3-6
テンキー (0)～(9)、(・)	バーコードのマニュアル入力。 設定モード時に該当する番号の選択。	P. 3-6
(F1)	バーコード入力モードの切り替え。	P. 4-5
(F2)	ファイル送信	P. 3-12
(F3)	固定データ BOX の更新	P. 3-14
(F4)	バックライトの点灯	P. 3-15
(F5)～(F8)	カーソルの移動	P. 4-4
(BS)	マニュアル入力中のデータを1桁削除	P. 3-6
(SF) + (F1)	設定モードの表示	P. 4-2
(SF) + (F2)	ステータスの表示	P. 3-10
(SF) + (F3)	パラメータの切り替え	P. 4-17
(SF) + (F4)	データの履歴参照、レコード削除	P. 3-11
(SF) + (C)	直前に入力したデータの削除	P. 3-7

3-4 バーコードの入力

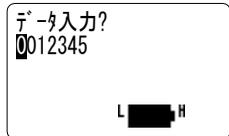
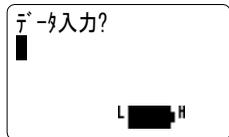
バーコードの入力には、読取キーを使用する方法とマニュアル入力の2つの方法があります。

3-4-1 読取キーを使用したバーコードの入力

操作手順

- ① 入力待ちの状態では、読取口をバーコードに向けて読取キーを押します。
- ② “ピッ”という音と共にバーコードが入力されます。入力されたバーコードは、2行目に表示されます。入力されたバーコードは、ドライブSの「～.DAT」ファイルに格納されます。(P. 2-7、3-8)

続けて、次のバーコードを入力するときは、読取口を別のバーコードに向けて読取キーを押します。

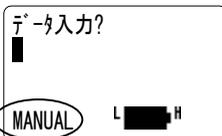


入力したデータを削除する場合は (P. 3-7)、入力したデータの確認は (P. 3-10) をご覧ください。

3-4-2 テンキーを使用したデータの入力 (マニュアル入力モード)

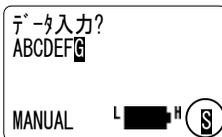
操作手順

- ① 入力待ちの状態、**(F1)** キーを押します。画面左下に「MANUAL」と表示され、マニュアル入力モードになります。



もう1度**(F1)** (または**(C)**) キーを押すと、「MANUAL」表示が消えて読取キーの入力になります。

- ② データを、テンキーを使って入力します。
数字を入力する場合は、**(0)~(9)**を押します。
アルファベットを入力する場合は、**(SF)** キーを押します。



画面右下に**(S)**が表示されている(shift キーが押されている)状態で、**(0)~(9)**、**(◁)**を押します。各キーには、3文字割当てられています(**(0)**キーでは、キーに表示されている文字の他に“スペース”を入力することもできます)。

例えば“C”を入力する場合は**(7)**を3回押します。次の文字を入力するには**(FB)**キーでカーソルを次に送ります。

画面右下の**(S)**の表示を消す(Shiftを解除する)には、**(SF)**キーを押します。

- ③ 入力されたデータは、2行目に表示されます。間違ったデータを入力してしまった場合は、**(BS)**キーを押して1桁削除します。

(ENT) キーを押してデータを確定すると、“ピッ”という音と共にデータが入力され、入力待ち画面に戻ります。データはドライブSの「～.DAT」ファイルに格納されます。(P.2-7、3-8)

続けて、次のデータをマニュアル入力するときは、再度手順①から操作します。



「付録 データ入力用バーコード」(付録-2)に掲載されているバーコードを読取ることで、一文字ずつ文字を入力することもできます。



本来**(S)**が表示される領域(最下行の一番右の桁)に、すでに文字が表示されている場合、**(SF)**キーを押して**(S)**を表示すると、**(S)**がその領域に上書きされます。再び**(SF)**キーを押してShiftを解除するとその領域の文字が消え、空欄になります。これは、**(S)**を表示するために強制的に1桁確保されるためであり、データが削除されたわけではありません。カーソルを移動すると、再度データが表示されます。

3-4-3 確定する前のデータを修正、削除する

テンキーなどで入力したデータを ENT キーで確定する前に、データの修正や削除が必要な場合は、次の方法で修正や削除を行います。

操作手順

例) 修正前のデータ > 1234SBCD 修正後のデータ > 1234ABCD

- ① F5 キーでカーソルを下の例の位置まで移動します。

1234SBCD

- ② SF キーを押してから 7 キーを押して、“A”を入力します。 ENT キーを押して、データを確定します。

1234ABCD

入力されているデータを削除する場合は、 C キーを押します。表示されているデータは全て削除され、カーソルが先頭に戻ります。

3-4-4 確定したデータを削除する

ENT キーを押して確定した直後のデータは、 SF キー+ C キーで削除することができます。



SF キー+ C キーの操作では、直前のレコードのみ削除できます。それ以前に入力されたレコードは、削除されません。(P. 3-8)

3-5 データの格納について（～.DATファイル）

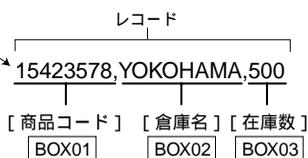
3-5-1 レコードとBOX

標準アプリケーションでは、入力されたデータ（レコード）は、使用しているパラメータファイルに設定されている「～.DAT」ファイル（ドライブS）に格納されます。出荷時の標準アプリケーションでは、標準パラメータを使用するため、「STD_PRM.DAT」というファイルに格納されます。（P.2-7）

1つのレコードは、1～16個のBOX（P.i表記上の注意）によって構成されています。1つのレコードを形成するBOXの数やデータ形式などは、パラメータファイルによって決められています。

SAMPLE.DATに入力されたレコードの例

```
15423578,YOKOHAMA,500
15423550,YOKOHAMA,400
15423560,YOKOHAMA,1000
15423540,YOKOHAMA,600
15423520,YOKOHAMA,100
```



「Welpack-H」では、新規にパラメータファイルを作成することができ、これらのレコード形式をカスタマイズすることができます。（P.3-16）

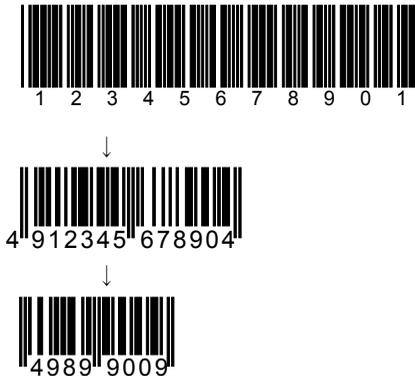


ユーザーによって作成された、パラメータファイルを使用している場合は、指定された DAT ファイルに格納されます。

3-5-2 STD_PRM.DAT ファイル

出荷時の標準アプリケーションでは、標準パラメータ「STD_PRM.PMD」（P.2-7）を使用します。標準パラメータでは、1つのBOXで1つのデータ（レコード）を形成するように設定されています。入力されたデータ（レコード）は、「STD_PRM.DAT」ファイルに格納されます。

●標準パラメータを使用して、次のバーコードを順番に入力した場合



「STD_PRM.DAT」ファイルには、次のような形式で格納されます。

STD_PRM.DAT

```
12345678901
4912345678904
49899009
```

このファイルはテキスト形式のデータなので、ホストコンピュータに送信後さまざまなアプリケーションで加工することができます。

続けて、バーコードを入力する場合は、STD_PRM.DAT に現在入力されているレコードの次から、引き続き入力されます。(SF) キー + (C) キーで消去 (P.3-7) されるデータは一番最後のレコードです。(SF) キー + (F2) キー (P.3-10) で表示されるステータスは、このファイルに格納されているレコード数を表示します。

このファイルは一度削除 (P.3-12) されても、新たにデータを入力すると自動的に作成されます。

3-6 入力したデータの確認

3-6-1 ステータスの表示

ステータスを表示することで、現在使用しているパラメータでいくつかのデータ（レコード）が入力されているか確認することができます。

操作手順

- ① 入力待ち画面で、**(SF)** キー + **(F2)** キーを押すと、レコード数が表示されます。
- ② **(C)** キーを押して、前の画面に戻ります

＜ステータス＞
レコード数:000010件

3-6-2 レコードの確認、削除

既にファイルに保存されたデータを確認し、レコード単位で削除を行なうことができます。

ただし、レコードが固定長でないと、確認、削除を行なうことができません。

操作手順

- ① 入力待ち画面で、**(SF)** キー+**(F4)** キーを押すと、1 行目に BOX 番号、2~4 行目にその BOX のデータ、5 行目には、現在表示中のレコード番号/総レコード数が表示されます。

```
BOX 111
490T234567894

Rec 000003/000005
```

- ② **(F6)** キーや **(F7)** キーを押すとレコードの移動をします。
(F5) や **(F8)** キーを押すと BOX の移動をします。

- ③ **(C)** キーを押すと表示中のレコードを削除することができます。

「1:はい」「2:いいえ」のいずれかを選択して**(ENT)** キーで実行します。

```
レコードを
削除しますか?
1:はい 2:いいえ
```

- ④ **(SF)** キー+**(F4)** キーを押すと入力待ち画面に戻ります。



レコードの確認、削除は標準アプリケーション Ver. 1.10 以降で動作します。
S ドライブにファイル 1 つ分の空き容量がない場合はレコードの削除を行なうことができません。

3-7 F2キーを使用したファイルの送信



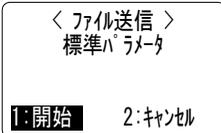
ファイルの送信には、データ通信を行うために準備が必要です。詳しくは「1-1-2 データ通信について」(P. 1-2)をご覧ください。

標準アプリケーションで読取ったデータは、現在選択されているパラメータの「～.DAT」ファイルに入力されています。標準パラメータを使用している場合、ドライブ S の「STD_PRM.DAT」というファイルに格納されています (P. 2-7、3-8)。入力待ち画面で **F2** キーを押すと、ホストコンピュータに最新の「～.DAT」ファイルを送信します。

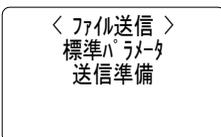
操作手順

通信準備が整ったら、ホストコンピュータ側で「Welfer II for Windows」を起動しておきます。

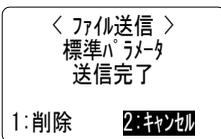
① 入力待ち画面で **F2** キーを押して、ファイル送信の画面を表示します。2行目には、現在使用しているパラメータ名が表示されます。



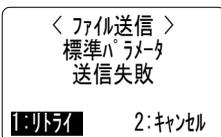
② 「1:開始」を選択してファイルを送信すると、画面には、「送信準備」と表示されます。



③ 送信が完了した場合は、右の画面が表示されます。「1:削除」を選択すると、「～.DAT」ファイルは削除されます。「2:キャンセル」を選択すると、新たに入力するデータは、引き続き「～.DAT」に追加されます。



④ 何らかの理由で、上手く送信できなかった場合は、右の画面が表示されます。「1:リトライ」を選択すると、再度送信します。





標準アプリケーションでは、設定モードからファイルの送受信を行うこともできます。ファイルの送受信に関しては「4-5 データファイル」(P. 4-10) をご覧ください。

3-8 F3キーによる固定データBOXの更新



BOXについては、「3-5-1 レコードとBOX」(P. 3-8)をご覧ください。
パラメータファイルの作成については、「3-10 標準アプリケーション
のカスタマイズ「Welpack-H」(P. 3-16)をご覧ください。

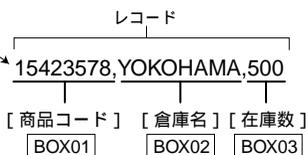
ユーザーが独自にパラメータファイルを作成する際に、1レコードの中に複数のBOXを設定する場合があります。さらに、それらのBOXの中には「既に決まったデータが入力されているBOX」が設定されている場合があります。

●あるレコードが次の3つのBOXで構成される場合

「商品コード」, 「倉庫名 (YOKOHAMA)」, 「在庫数」

SAMPLE.DATに入力されたレコードの例

15423578,YOKOHAMA,500
15423550,YOKOHAMA,400
15423560,YOKOHAMA,1000
15423540,YOKOHAMA,600
15423520,YOKOHAMA,100



このレコードでは、既にBOX「倉庫名」として“YOKOHAMA”が固定値として設定されているとします。通常の入力では、「商品コード」と「在庫数」を入力するだけですが、**(F3)**キーを押すことで、「倉庫名」を強制的に入力可能な状態にし、必要に応じて値を変更できます。



標準アプリケーションに付随する標準パラメータは、通常の入力BOX1つでレコードが構成されているため、**(F3)**キーを押しても、何も変更されません。固定データBOXを使用する場合は、別途「Welpack-H」が必要です。

3-9 F4キーによるバックライトの点灯



出荷時設定では、バックライトは点灯しない設定になっています。バックライトを点灯するには、あらかじめ「4-8-3 バックライト」(P. 4-27)をご覧ください、バックライトを点灯する設定にしてください。

操作手順

- ① **F4** キーを押すと、設定モードで設定した時間バックライトを点灯します。

3-10 標準アプリケーションのカスタマイズ 「Welpack-H」

標準アプリケーションをカスタマイズするための専用ソフトウェア、「Welpack-H」(P.1-3)を使用することで、標準アプリケーションをより細かく設定することができます。

「Welpack-H」では、標準アプリケーションで可能な設定に加えて次の設定ができます。

- ・ガイダンスメッセージ 各局面におけるメッセージをカスタマイズできます。
- ・読取コード 読取り可能なコード体系を設定できます。
- ・ファイル形式 IDレコードやEOFコードを付加できます。
- ・レコード形式 BOX数や書式などをカスタマイズできます。
- ・マッチング検査機能 データを比較して無効なデータの入力を抑制できます。
- ・フィルタリング機能 入力を許可するデータ書式を設定できます。
- ・自動編集機能 入力データを一定の書式に基づき編集できます。
- ・検索機能 入力したデータをキーとしてファイルを検索できます。



Welpack-Hについての詳細は、ソフトウェア付属のヘルプをご覧ください。

3-10-1 Welpack-Hの概要

例えば、HLT-700-02を使用して商品コードを入力する棚卸業務などで、商品コード以外に、数量、作業者ID、日時などが同じレコード(P.3-8)に付加されていると、大変便利です。Welpack-Hを使用すると、次のようなレコード形式で入力できるパラメータファイルを作成することができます。

商品コード,数量,作業者ID,日付,時刻(CR+LF)

データファイルの形式を設定する以外にも入力作業を効率的にできるようにしたり、ミスを減らすといった補助的な機能も充実しています。

Welpack-Hで作成するパラメータファイルは、PCでは「～.PRM」という拡張子が付与されますが、HLT-700-02にダウンロード後、標準アプリケーションが処理用に解析をして「～.PMD」というファイルに変換しています。

■ 変更可能なパラメータについて

Welpack-H を使用して変更可能なパラメータは、「グローバル」、「フォーマット」、「BOX」の3つに分けられます。これらのパラメータはさらに詳細な設定項目に分かれており、それぞれ詳細な設定が可能です。

グローバル	グローバル設定では、主に HLT-700-02 全体に関する設定を行いません。	
	パラメータタイトル 送信ファイル名(またはパターン) ファイル名 ID 付加 BOX 数 自動データ削除 パイプレータ マニュアル入力切替	トリガー パワーセーブ 二度読み オートパワーオフ バックライト点灯時間 レコード確認 その他詳細設定
フォーマット	フォーマット設定では、主にレコードのフォーマットに関する設定を行います。	
	セパレータ ターミネータ	ID レコード付加 EOF コード
BOX	グローバル設定の「BOX 数」で設定した数だけ BOX 設定できます。BOX 毎に下記の項目が設定可能です。	
	BOX タイプ 入力メッセージ 入力通知メッセージ (*1) 入力取消メッセージ (*1) データ表示時間 (*1) 読取り音 (*1) 読取コード ステータス行の表示 マスターファイル検索	入力桁数 送信桁数 自動編集スクリプト BOX 初期値 フィルタスクリプト 埋めキャラ データ詰め方向 マッチング

Welpack-H には、データの表示を簡単に設定できるようにメッセージモードが2種類用意されています。

- ※1 『簡易メッセージモード』の場合、上の表の BOX 「入力通知メッセージ」及び「入力取消メッセージ」は設定は不要です。その代わりに「読取り音」と「データ表示時間」の設定をします。『アドバンストモード』の場合は全ての設定が可能です。



「入力メッセージ」などのメッセージを設定する場合に半角で256文字以上を設定すると、画面が乱れる場合があります。

3-10-2 パラメータファイルの作成

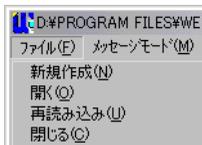
パラメータファイルの作成、編集は次の手順で行います。



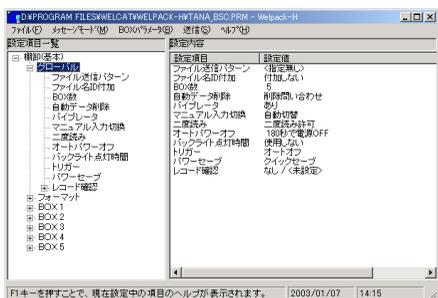
Welpack-H の操作に関する詳細は、ソフトウェア付属のヘルプをご覧ください。

操作手順

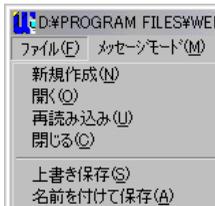
- ① Welpack-H を起動すると右の画面が表示されます。すでにあるパラメータファイルを編集する場合は、メニューの [ファイル] から [開く] を選択します。



- ② 画面の左側に設定項目の一覧が表示されます。項目を選択すると、右側に設定内容が表示されます。さらに設定内容から、編集したい項目をダブルクリックすると、各項目の編集画面が表示されます。



- ③ 変更が完了したら、メニューの [ファイル] から [上書き保存] または [名前を付けて保存] を選択して、編集中のパラメータファイルを保存します。



3-10-3 パラメータファイルの送信準備

作成したパラメータファイルを HLT-700-02 に送信します。ここでは、Welpack-H の通信設定およびファイル送信の準備について簡単に説明します。

HLT-700-02 でのパラメータファイルの受信については、「4-6-3 パラメータの受信」(P. 4-18) をあわせてご覧ください。

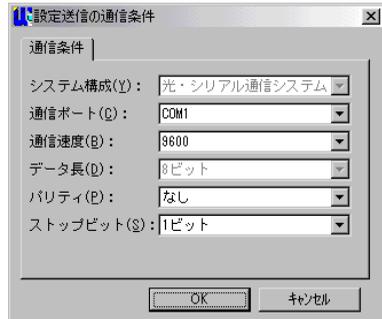
操作手順

- ① 送信するパラメータファイルを開きます。
- ② 通信条件を設定します。メニューの [送信] から [通信設定] を選択すると、右の画面が表示されます。



この画面で、設定できる項目は下記のとおりです。

- ・通信ポート
- ・通信速度
- ・パリティ
- ・ストップビット



“通信速度” “パリティ” “ストップビット” は、必ず HLT-700-02 システムメニューの通信設定と同じ設定にしてください。“通信ポート” の設定は、ご使用のホストコンピュータが、HLT-700-02 とのデータ通信に使用するポートを設定してください。

設定が終了したら、[OK] ボタンを押します。

- ③ メニューの [送信] から [パラメータを送信] を選択すると、右の画面が表示されます。

HLT-700-02 をパラメータの受信待ちの状態 (P. 4-18) にしたら、[送信] ボタンを押すと、送信を開始します。



パラメータファイルの送信は、必ず Welpack-H を使用してください。また、HLT-700-02 のパラメータファイル受信は、必ず「4-6-3 パラメータの受信」(P. 4-18) に従って行ってください。

3-10-4 複数 BOX 設定での特殊操作

Welpack-H にて、BOX を 2 個以上に設定した場合、特殊な操作を行うことができます。

■ ◎ キー：1 つ前に入力した BOX データの削除

バーコード入力待ち状態で、◎ キーを押すことで、1 つ前に入力した BOX のデータを削除してその BOX の入力待ちになります。

(具体例 ■…その BOX でのデータ入力待ちを意味する)

BOX	1	2	3	4	5
データ	入力済み	入力済み			

↓ ◎ キーを押すと…

BOX	1	2	3	4	5
データ	入力済み				

(1 つ前に入力した BOX2 のデータを削除)

■ ⬆ (↑)、⬇ (↓) キー：BOX の移動

バーコード入力待ち状態で、⬇ キーで次の BOX に、⬆ キーで 1 つ前の BOX に移動します。

BOX 移動をしてデータを入力すると、まだデータが格納されていない BOX に自動的に移動します。

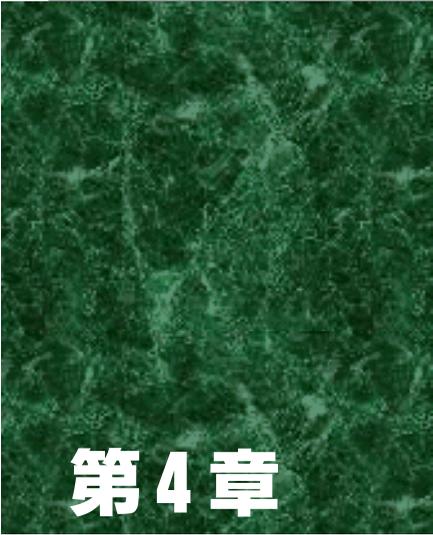
BOX	1	2	3	4	5
データ	入力済み				

↓ ⬇ キーを 3 回押して BOX5 に移動

BOX	1	2	3	4	5
データ	入力済み				

↓ BOX5 にデータを入力すると…

BOX	1	2	3	4	5
データ	入力済み				入力済み

A vertical rectangular area with a dark green, marbled or textured background. The text '第4章' is centered in the lower portion of this area.

第4章

A thin horizontal bar with a dark green, marbled or textured background, serving as a background for the chapter title.

標準アプリケーションの設定

4-1 はじめに

標準アプリケーションでは「設定モード」を使用して、HLT-700-02 の動作設定を行うことができます。

この章では、「設定モード」の使い方を中心に、HLT-700-02 の動作設定やファイルの送受信について説明します。

4-1-1 設定モードの表示

操作手順

- ① 入力待ち画面で(SF)キーを押して(F)キーを押すと、設定モードを表示します。
- ② (C)キーを押すと、入力待ち画面に戻ります。

データ入力?

L [] H S

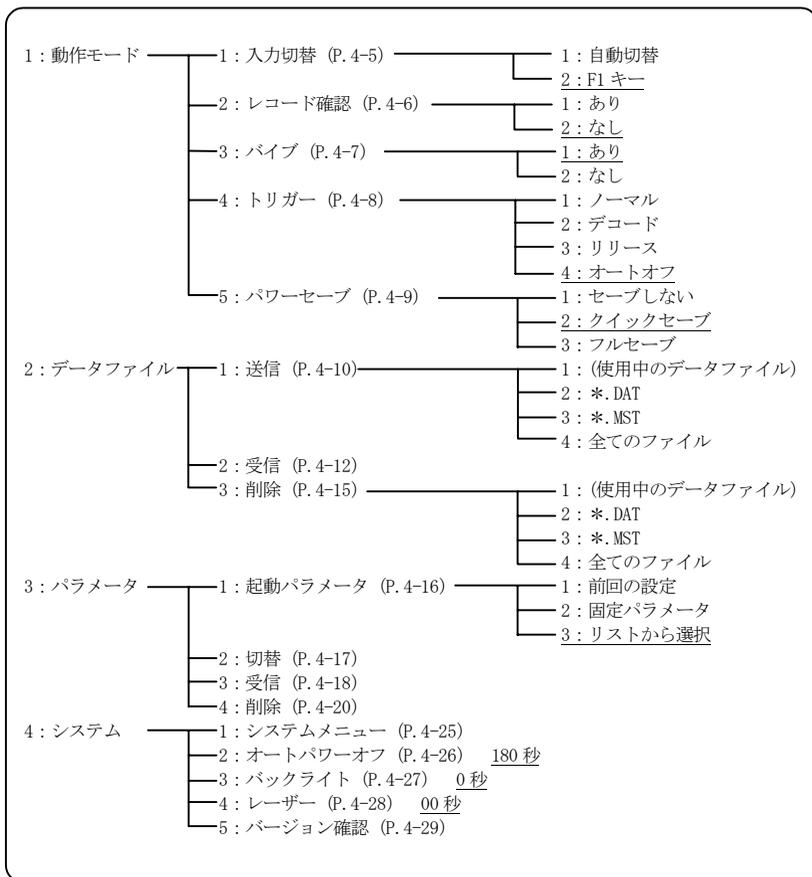
< 設定モード >
1: 動作モード
2: テータファイル
3: パラメータ
4: システム

4-2 設定モード一覧

設定モードで表示される項目は次のとおりです。

下線は、出荷時の設定です。

(P.**)は、本マニュアルでの参照ページです。



4-3 設定モードの操作

設定モードの操作は、次のキーを使用します。

Ⓒ	1つ前のメニューに戻ります。
①～⑨	該当する番号のメニュー項目を選択します。
ENT	メニュー項目の選択を確定します。
F4	バックライトを点灯します。(P. 4-27で設定済みの場合)
◀F5 (←) ▲F6 (↑) ▼F7 (↓) ▶F8 (→)	メニュー項目の選択を矢印の方向に移動します。

■ メニュー項目を選択する

各メニューの左にある項目番号に該当するテンキー (①～⑨) を押すか、◀F5～▶F8を押してカーソルを任意の方向に移動します。メニュー項目が“選択”されている場合、ハイライト表示 (反転表示) されます。

この状態で、ENTキーを押します。選択したメニュー項目に該当する機能を実行、または次のメニューを表示します。

< 設定モード >
 1: 動作モード
 2: テーマファイル
 3: パラメータ
 4: システム

■ 前のメニューに戻る

前のメニューに戻るときはⒸキーを押します。戻り先のメニューでは、直前に選択されていたメニュー項目をハイライト (反転) 表示します。

■ 画面の表示について

すべてのメニュー項目が1画面に収まらない場合、画面の左側に[↑] (画面の上にメニュー項目が隠れている場合) または[↓] (画面の下にメニュー項目が隠れている場合) を表示します。また、隠れているメニュー項目をテンキーで選択すると、自動的に画面がスクロールします。

表示されるメニュー (画面) によっては、項目の左側に「F:～」または「S:～」のようなアルファベットが表示される場合があります。項目の左側に表示されているアルファベットは、「F」=「ドライブF」、「S」=「ドライブS」を表わします。

< システム >
 1: システムメニュー
 2: オートパワーオフ
 3: バックライト
 4: レーザー

4-4 動作モードの設定

4-4-1 入力切替

バーコードを読取る際の、入力方法の切り替えを設定します。



バーコード入力の詳しい方法については「3-4 バーコードの入力」(P. 3-5) をご覧ください。

操作手順

- ① 設定モードから、「1: 動作モード」を選択します。
- ② 「1: 入力切替」を選択します。「1: 自動切替」または「2: F1 キー」を選択して、前の画面に戻ります。

```

< 動作モード >
1: 入力切替
2: コード確認
3: ハイブ
4: トリガー
  
```

自動切替	入力待ち画面の状態、読取キーを押すとレーザーが照射されます。テンキーを押すと、自動的にマニュアル入力モードに切り替わります。
(F1) キー	入力待ち画面の状態、読取キーを押すとレーザーが照射されます。(F1) キーを押すことで、マニュアル入力モードに切り替わります。

```

< 入力切替 >
1: 自動切替
2: F1キー
  
```

- ③ (C) キーを押すと、設定をキャンセルして入力前の画面に戻ります。

4-4-2 レコード確認

データを入力する度に、データ（レコード）の確定または取消を選択する画面を、表示するかどうか設定します。

操作手順

- ① 設定モードから、「1：動作モード」を選択します。
- ② 「2：レコード確認」を選択します。「1：あり」または「2：なし」を選択して、前の画面に戻ります。

< 動作モード >
 1: 入力切替
 2: レコード確認
 3: ヘルプ
 4: リターン

< レコード確認 >
 1: あり
 2: なし

あり	<p>レコードの最後の BOX (P. 3-8) が入力されると、右のような画面を表示します。</p> <p>「1：確定」を選択すると、「～.DAT」ファイルに書き込まれます。</p> <p>「2：取消」を選択すると、読取ったデータは破棄されます。</p>	<p>レコード確認? 123345678</p> <p>1: 確定 2: 取消</p>
なし	<p>レコードの最後の BOX が入力されると、自動的に「～.DAT」ファイルに書き込まれます。</p>	

- ③ **ⓐ** キーを押すと、設定をキャンセルして入力前の画面に戻ります。

4-4-3 バイス

ブザーが鳴ると同時にバイブレータを振動させるかどうか設定します。

操作手順

- ① 設定モードから、「1：動作モード」を選択します。

< 動作モード >
 1:入力切替
 2:リコード確認
 3:バイブ
 4:トリガー

- ② 「3：バイブ」を選択します。「1：あり」または「2：なし」を選択して、前の画面に戻ります。

< バイブ >
 1:あり
 2:なし

あり	ブザーが鳴ると同時に、バイブレータが振動します。
なし	ブザーのみが鳴り、バイブレータは振動しません。

- ③ © キーを押すと、設定をキャンセルして入力前の画面に戻ります。

4-4-4 トリガー

読取りキーの動作を設定します。

操作手順

- ① 設定モードから、「1：動作モード」を選択します。

< 動作モード >
 1: 入力切替
 2: リコード 確認
 3: ハイブ
 4: トリガー

- ② 「4：トリガー」を選択します。
 「1：ノーマル」「2：デコード」「3：リリース」「4：オートオフ」のいずれかを選択して、前の画面に戻ります。

< トリガー >
 1: ノーマル
 2: デコード
 3: リリース
 4: オートオフ

ノーマル	読取りキーを押すとレーザーが点灯し、常に読取りができます。
デコード	最初に読取りキーを押すとレーザーが点滅します。もう一度押すと点灯して読取りを開始します。
リリース	読取りキーを押すとレーザーが点滅し、読取りキーを離すと点灯して読取りを開始します。
オートオフ	読取りキーを押すとレーザーが点灯し、読み取りを開始します。読取りキーを離すと消灯します。



トリガーは標準アプリケーション Ver. 1.10 以降で動作します。

4-4-5 パワーセーブ

消費電流を抑えるための設定をします。

操作手順

- ① 設定モードから、「1:動作モード」を選択します。

＜動作モード＞
 5:パワーセーブ

- ② 「5:パワーセーブ」を選択します。「1:セーブしない」「2:クイックセーブ」「3:フルセーブ」のいずれかを選択して、前の画面に戻ります。

＜パワーセーブ＞
 1:セーブしない
 2:クイックセーブ
 3:フルセーブ

セーブしない	消費電流を抑えるための処理は一切しません。
クイックセーブ	バーコードの読取りに成功するとレーザーを自動的に消灯します。ただしスキャナへの電源の供給は続けます。次に読取りを開始する際の立ち上がり時間を短くできます。
フルセーブ	バーコードの読取りに成功するとスキャナへの電源の供給を停止します。次に読取りを開始する際の立ち上がり時間はクイックセーブに比べて長くなります。



パワーセーブは標準アプリケーション Ver. 1.10 以降で動作します。

4-5 データファイル

4-5-1 データファイルの送信

操作手順

- ① 「WelferII for Windows」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット (HIF-51) を HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) でホストコンピュータと接続した後、光通信ユニットの電源を ON にします。
HLT-700-02 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。
- ③ ホストコンピュータの「WelferII for Windows」を起動します。
- ④ 設定モードから、「2: データファイル」を選択します。
- ⑤ 「1: 送信」を選択して、送信するファイルの種類を選択します。

< データファイル >

- 1: 送信
- 2: 受信
- 3: 削除

< ファイルの種類 >

- 1: 標準パラメータ
- 2: *.DAT
- 3: *.MST
- 4: 全てのファイル

標準パラメータ使用の場合

使用しているパラメータ名が表示されます。	パラメータファイルで指定されたデータファイルを送信します。標準パラメータの場合は、「STD_PRM.DAT」です。
*.DAT	拡張子が「～.DAT」のファイルの中から、選択した1ファイルを送信します。
*.MST (P.4-15)	拡張子が「～.MST」のファイルの中から、選択した1ファイルを送信します。
全てのファイル	すべてのファイルの中から、選択した1ファイルを送信します。

- ⑥ 「1: 開始」を選択するとファイルの送信を行います。
「2: キャンセル」を選択するかⓐキーを押すと、送信をキャンセルして前の画面に戻ります。

＜ファイル送信＞
標準パラメータ

1: 開始 2: キャンセル

- ⑦ 「送信完了」と画面に表示されたら、何かキーを押して前の画面に戻ります。

＜ファイル送信＞
標準パラメータ
送信完了

何らかの理由で、上手く送信できなかった場合は、右の画面が表示されます。「1: リトライ」を選択すると、再度送信します。

＜ファイル送信＞
標準パラメータ
送信失敗

1: リトライ 2: キャンセル



パラメータファイルの送信は、システムメニューの通信設定にしたがって行われます。必ず、通信前に正しく設定されているか確認してください。

4-5-2 データファイルの受信

ホストコンピュータからファイルを受信します。



通信前に準備が正しく整っているか確認した後、操作を行ってください。通信環境や通信設定についての詳細は、「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

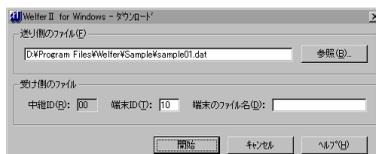
操作手順

- ① 「Welfer II for Windows」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット (HIF-51) を HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) でホストコンピュータと接続した後、光通信ユニットの電源を ON にします。
HLT-700-02 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。

- ③ ホストコンピュータの「Welfer II for Windows」を起動すると、右の画面を表示します。画面下の [ダウンロード] ボタンを押します。または、タスクバーのアイコンを右クリックして [ダウンロード] を選択します。



- ④ 表示されたウィンドウの [参照] ボタンを押して、送信するファイルを選択します。



- ⑤ ④の画面で、ファイル送信先の HLT-700-02 の端末 ID を入力します。



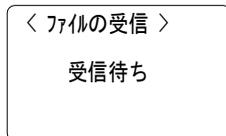
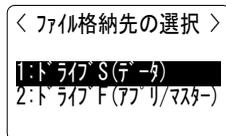
光通信ユニット (HIF-51) をデージーチェーン接続で使用しており、1つのファイルを複数の端末に一度に送信 (放送型ダウンロード) する場合は、端末 ID に**を入力します。デージーチェーン接続の詳細は、「ハードウェア/システムメニュー」マニュアルをご覧ください。

⑥ HLT-700-02 の設定モードから、「2:データファイル」を選択します。

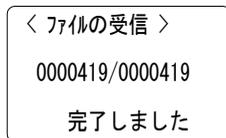
⑦ 「2:受信」を選択します。



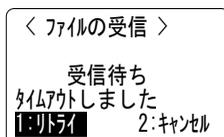
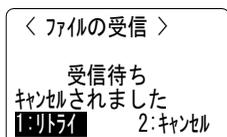
⑧ ファイルの格納先を選択します。格納先を選択して、**ENT** キーを押すと、HLT-700-02 が受信待ちの状態になります。ホストコンピュータの「Welfer II for Windows」で、前ページ④画面の [開始] ボタンを押すと、HLT-700-02 はファイルの受信を開始します。



⑨ 「完了しました」と画面に表示されたら、何かキーを押して前の画面に戻ります。



手順⑧のファイルの受信待ちのときに**C** キーを押すと、受信をキャンセルします。また、一定時間通信が行われない場合、タイムアウトします。



① キーが押された場合

一定時間通信が行われなかった場合

いずれも、「1:リトライ」を選択すると再度通信を行います。

「2:キャンセル」を選択すると、⑥の画面に戻ります。

—ファイル受信に関する注意—

ドライブ F にファイルを受信する場合、ファイルを一度ドライブ S に受信した後にドライブ F へ移動します。ファイルをドライブ F に受信する際には、あらかじめ受信するファイルを格納するのに十分な空き領域がドライブ S にあることをご確認ください。(P. 2-4、2-7)

また、ドライブ S に同名のファイルがあった場合、ドライブ F へファイルを移動した後、ドライブ S にあったファイルは消去されます。その際はドライブ S に受信しなおしてください。



< ファイルの受信 >
F: HLT700S. LST
すでに同名のファイルがドライブ上に存在します。
1: 上書き 2: キャンセル



< ファイルの受信 >
F: HLT700S. LST
すでに同名のファイルがドライブ上に存在します。
完了しました

ドライブ F に同名のファイルが存在していた場合

左の画面で、「1: 上書き」を選択すると、ファイルをドライブ F に受信（移動）します。

4-5-3 データファイルの削除

操作手順

- ① 設定モードから、「2: データファイル」を選択します。
- ② 「3: 削除」を選択して、削除するファイルの種類を選択します。
- ③ 削除するファイルを選択します。

〈データファイル〉
1:送信
2:受信
3:削除

〈ファイルの種類〉
1:標準パラメータ
2:* .DAT
3:* .MST
4:全てのファイル

使用しているパラメータ名が表示されます。	パラメータファイルで指定されたデータファイルを削除します。標準パラメータの場合は、「STD_PRM. DAT」です。
*.DAT	拡張子が「~, DAT」のファイルの中から、選択した1ファイルを削除します。
*.MST	拡張子が「~, MST」のファイルの中から、選択した1ファイルを削除します。
全てのファイル	すべてのファイルの中から、選択した1ファイルを削除します。

〈ファイル削除〉
STD_PRM. DAT

- ④ 「1: 削除」を選択するとファイルの削除を行います。「2: キャンセル」を選択するかⓐキーを押すと、削除をキャンセルして前の画面に戻ります。

1:削除 2:キャンセル



「~, MST」ファイル（マスターファイル）とは、テキスト形式のファイルです。これを使用すると、読取ったデータを検索して、マスターファイル内の該当するデータを抽出して画面に表示したりできます。このファイルを使用する場合は、別途「Wepack-H」が必要です。「Wepack-H」の詳細は、ソフトウェア付属のヘルプをご覧ください。

4-6 パラメータ

標準アプリケーションを起動する際に、自動的に選択されるパラメータの設定、切り替え、削除を行います。ホストコンピュータからパラメータファイルを受信することも可能です。

また、ユーザー独自に作成したパラメータリストを表示することもできます。

パラメータタイトルが全て全角5文字以内で、パラメータ数が5個以上の場合に、パラメータのリスト表示の際、2列表示になります（標準アプリケーション Ver. 1.10以降で有効です）。



標準アプリケーションのパラメータファイルやパラメータリストについては、「2-4 標準アプリケーションのファイル構成」(P. 2-7)をご覧ください。

パラメータリストについては、「4-7 パラメータメニューの階層化」(P. 4-21)をご覧ください。

4-6-1 起動パラメータ

標準アプリケーション起動時に使用する、パラメータファイルを設定します。

操作手順

- ① 設定モードから、「3: パラメータ」を選択します。
- ② 「1: 起動パラメータ」を選択します。

＜パラメータ＞
1: 起動パラメータ
 2: 切替
 3: 受信
 4: 削除

- ③ 表示されたメニューから、パラメータの設定を選択します。

＜パラメータ＞
1: 前回の設定
 2: 固定パラメータ
 3: リストから選択

1: 前回のパラメータ	前回電源を OFF にしたときに使用していたパラメータが選択されます。
2: 固定パラメータ	ドライブ S に格納されているパラメータをリスト表示します。リストの中から選択したパラメータは、起動する際に必ず選択されます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> < パラメータ選択 > 標準パラメータ USERパラメータ </div>
3: リストから選択	起動する度にドライブ S に格納されているパラメータをリスト表示して、使用するパラメータを選択することができます。

- ④ ③ キーを押すと、選択をキャンセルして前の画面に戻ります。

4-6-2 パラメータの切り替え

現在使用しているパラメータから別のパラメータに切り替えます。

操作手順

- ① 設定モードから、「3: パラメータ」を選択します。
 ② 「2: 切替」を選択します。

< パラメータ >
 1: 起動パラメータ
 2: 切替
 3: 受信
 4: 削除

- ③ 起動するパラメータを、リストの中から選択すると、再起動後にパラメータが切り替わり、新たに選択したパラメータの入力待ち画面を表示します。

< パラメータ選択 >
 標準パラメータ
 USERパラメータ



- ③ キー + ③ キーを押すと、③のパラメータ選択画面を表示できます。

4-6-3 パラメータの受信

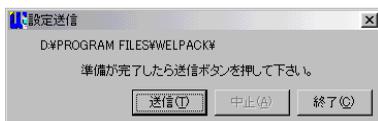
ホストコンピュータからパラメータファイルを受信します。
パラメータファイルの受信には、「Wepack-H」を使用します。



パラメータファイルの受信には、別途「Wepack-H」が必要です。
通信環境や通信設定についての詳細は、「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアル、または「Wepack-H」付属のヘルプをご覧ください。

操作手順

- ① 「Wepack-H」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ② 光通信ユニット (HIF-51) を HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) でホストコンピュータと接続した後、光通信ユニットの電源を ON にします。
HLT-700-02 とホストコンピュータを直接接続する場合は、PC 接続用ケーブル (HOP-C031) で接続します。
- ③ ホストコンピュータの「Wepack-H」を起動します。作成したパラメータファイルを開き、メニューの [送信] から [パラメータを送信] を選択すると、次のダイアログが表示されます。



Wepack-H のパラメータファイルの送信設定は、「3-10-3 パラメータファイルの送信準備」(P.3-19) をご覧ください。

- ④ HLT-700-02 の設定モードから、「3 : パラメータ」を選択します。
- ⑤ 「3 : 受信」を選択します。
- ⑥ 「1 : 開始」を選択して、③画面の [送信] ボタンを押すと、HLT-700-02 はファイルの受信を開始します。
「2 : キャンセル」を選択するか ⓐ キーを押すと、受信をキャンセルして前の画面に戻ります。

< パラメータ受信 >

1:開始 2:キャンセル

- ⑦ 受信完了後、**(ENT)** キーを押して再起動すると、受信したパラメータファイルを起動します。

<パラメータ受信>

受信完了
ENT : 再起動

- ⑧ 何らかの理由で、上手く受信できなかった場合は、右の画面が表示されます。「1:リトライ」を選択すると、再度受信します。

<パラメータ受信>

受信失敗

1:リトライ 2:キャンセル



パラメータファイルの受信は、システムメニューの通信設定にしたがって行われます。必ず、通信前に正しく設定されているか確認してください。

4-6-4 パラメータの削除

パラメータを削除します。

操作手順

- ① 設定モードから、「3：パラメータ」を選択します。
- ② 「4：削除」を選択します。

＜パラメータ＞
1: 起動パラメータ
2: 切替
3: 受信
4: 削除

- ③ ドライブSに格納されているパラメータをリスト表示します。削除するパラメータを、リストの中から選択します。

＜パラメータ選択＞
標準パラメータ
USERパラメータ

- ④ 「1：削除」を選択すると、“ピピッ”という音と共にパラメータが削除され、②の画面に戻ります。
「2：キャンセル」を選択するか◎キーを押すと、削除をキャンセルして②の画面に戻ります。

＜パラメータ削除＞
標準パラメータ

1: 削除 2: キャンセル



使用中のパラメータは削除できません。

4-7 パラメータメニューの階層化

ユーザーの業務に応じて「パラメータリスト」を作成することで、複数存在するパラメータファイルから、効率よく作業毎に使用するパラメータを選択できます。パラメータリストとは、複数あるパラメータメニューを階層化して表示、選択するためのファイルを指します。(P. 2-7)

例えば、以下のパラメータファイルを階層表示したいとします。

パラメータ名	パラメータファイル
入荷検品 A	ARRIVE_A.PRM
入荷検品 B	ARRIVE_B.PRM
出荷検品 A	SHIP_A.PRM
出荷検品 B	SHIP_B.PRM
ピッキング	PICKING.PRM
棚卸	STOCK.PRM
計 6 ファイル	

「4-6-2 パラメータの切り替え」(P. 4-17)などでパラメータを選択しようとする時、右のような画面になります。

＜パラメータ選択＞
 入荷検品A
 入荷検品B
 出荷検品A
 ↓ 出荷検品B

ファイル名“HLT700S.LST”というパラメータリストを作成することで、一覧表示されるパラメータにメニュー項目や階層を設定することができます。



出荷時の標準アプリケーションには、パラメータファイルは 1 つしかありません。(P. 2-7) 複数のパラメータファイルを作成、格納するには、別途「Welpack-H」が必要です。

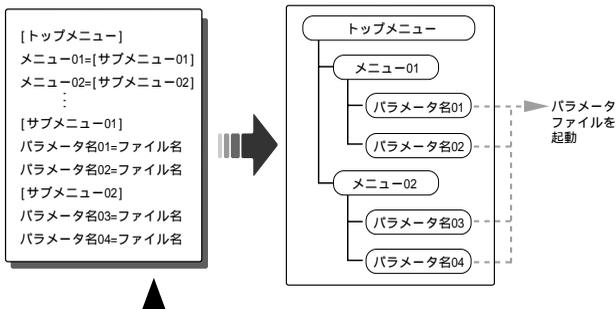
Welpack-H で作成するパラメータファイルは、PC では「～.PRM」という拡張子が付与されますが、HLT-700-02 にダウンロード後、標準アプリケーションが処理用に解析をして「～.PMD」というファイルに変換しています。

4-7-1 パラメータリストの作成

パラメータリストは、テキスト形式のファイルです。

Windowsなどに搭載されている「メモ帳」のようなエディタで、次のようなテキストを入力します。

リストファイル 参考書式



「メモ帳」などでテキスト形式のファイルを作成して、ファイル名を「HLT700S.LST」で保存。



「HLT700S.LST」以外のファイル名では、標準アプリケーションで認識されません。リストファイルを使用する場合、パラメータの2列表示はできません。

■ 例

次の複数あるパラメータを、リストファイルを作成して階層化する場合。

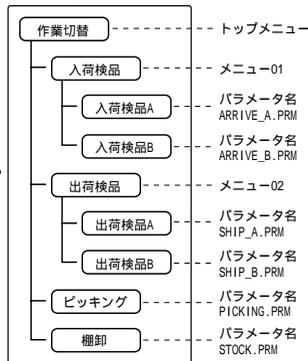
パラメータ名	パラメータファイル
入荷検品 A	ARRIVE_A.PRM
入荷検品 B	ARRIVE_B.PRM
出荷検品 A	SHIP_A.PRM
出荷検品 B	SHIP_B.PRM
ピッキング	PICKING.PRM
棚卸	STOCK.PRM
計 6 ファイル	

HLT700S.LST

```

【作業切替】
入荷検品=[入荷検品]
出荷検品=[出荷検品]
ピッキング= PICKING.PRM
棚卸= STOCK.PRM
【入荷検品】
入荷検品A=ARRIVE_A.PRM
入荷検品B=ARRIVE_B.PRM
【出荷検品】
出荷検品A=SHIP_A.PRM
出荷検品B=SHIP_B.PRM

```

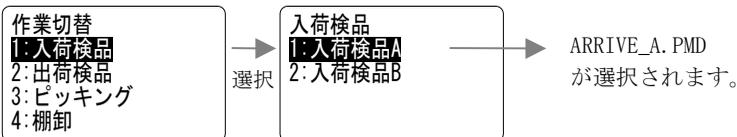


「メモ帳」などでテキスト形式のファイルを作成して、ファイル名を「HLT700S.LST」で保存。

HLT-700-02にロード後、上記パラメータファイルの拡張子は「.PMD」になります。

作成したファイルは、「4-5-2 データファイルの受信」(P.4-12)で、ホストコンピュータから HLT-700-02 のドライブ F または S にダウンロードします。

「4-6-2 パラメータの切り替え」(P.4-17)で、リストを表示すると次の様に表示されます。



第4章 設定編

また、以下のようにして、リストにファイルの一括送信を行なう選択肢を加えることができます。

■ 例

[作業メニュー]

入荷検品=ARRIVE. PRM

棚卸=STOCK. PRM

データ一括送信=[*. csv] …これを選択すると拡張子が(csv)のファイルを送信します。

拡張子は1～3文字の英数字で、形式は『*. XXX』（XXXは拡張子）のみです。

■ 例

データ一括送信=[*. txt]	…	一括送信できる
データ一括送信=[*. 11]	…	一括送信できる
データ一括送信=[*.]	…	一括送信できない
データ一括送信=[*. ao@]	…	一括送信できない



この一括送信を行なう機能は、標準アプリケーション Ver. 1.10以降で動作します。

4-8 システム

標準アプリケーションを使用中に、システムメニューを起動して HLT-700-02 の動作設定を行うことができます。また、システムメニューでは設定できない動作設定や標準アプリケーションのバージョン情報を表示することができます。

4-8-1 システムメニュー

操作手順

- ① 設定モードから、「4：システム」を選択します。
- ② 「1：システムメニュー」を選択して、システムメニューを表示します。
- ③ システムメニューの一番最初の画面で、**C** キーを押すと標準アプリケーションに戻ります。

< システム >

1:システムメニュー
2:オートパワーオフ
3:バックライト
4:レーザー

< システムメニュー >

1:設定 3:確認
2:ファイル 4:テスト



システムメニューについての詳細は、「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

4-8-2 オートパワーオフ

設定した時間の間キー操作がない場合、自動的に電源をOFFにする設定をします。出荷時の設定は180秒です。

操作手順

- ① 設定モードから、「4：システム」を選択します。
- ② 「2：オートパワーオフ」を選択します。

＜システム＞
1:システムメニュー
2:オートパワーオフ
3:バックライト
4:レーザー

- ③ テンキーで、秒数を設定します。設定できる範囲は0秒または10～999秒です。ここで設定した時間の間キー操作がない場合、自動的に電源をOFFにします。数値を入力したら、**(ENT)** キーを押して確定します。

＜オートパワーオフ＞
オートパワーオフ:180秒

- ④ **(C)** キーを押すと、設定をキャンセルして前の画面に戻ります。



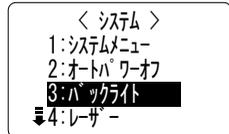
オートパワーオフ時間を1～9秒に設定した場合は、10秒に設定されます。オートパワーオフを機能させない場合は、000秒に設定してください。

4-8-3 バックライト

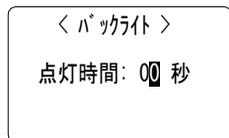
ⓕ4 キーを押すと、液晶画面のバックライトが点灯します。一度ⓕ4 キーを押してからバックライトが点灯している時間を設定します。出荷時の設定は0秒に設定されているため、ⓕ4 キーを押してもバックライトは点灯しません。

操作手順

- ① 設定モードから、「4：システム」を選択します。
- ② 「3：バックライト」を選択します。



- ③ テンキーで、秒数を設定します。設定できる範囲は00～99秒です。ⓕ4 キーを押すと、ここで設定した時間の間バックライトを点灯します。数値を入力したら、ⓂENT キーを押して確定します。



- ④ ⓂENT キーを押すと、設定をキャンセルして前の画面に戻ります。



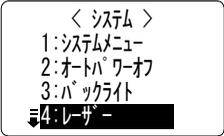
バックライトを点灯させない場合は、00秒に設定してください。

4-8-4 レーザー

入力待ち画面で読取キーを押すと、バーコードを読取るレーザーを照射します。読取キーを一度押してからレーザーを照射している時間を設定します。出荷時の設定は00秒に設定されているため、読取キーを押している間レーザーを照射して、離すとレーザーの照射を止めます。

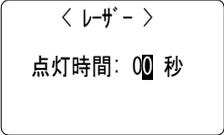
操作手順

- ① 設定モードから、「4：システム」を選択します。
- ② 「4：レーザー」を選択します。



<システム>
1:システムメニュー
2:オートパワーオフ
3:バックライト
4:レーザー

- ③ テンキーで、秒数を設定します。設定できる範囲は00～99秒です。読取キーを押すと、ここで設定した時間の間レーザーを照射します。数値を入力したら、(ENT)キーを押して確定します。00秒に設定すると、読取キーを押している間レーザーを照射して、離すとレーザーの照射を止めます。



<レーザー>
点灯時間: 00 秒

- ④ (C)キーを押すと、設定をキャンセルして前の画面に戻ります。

4-8-5 バージョンの確認

標準アプリケーションのバージョンを確認します。

操作手順

- ① 設定モードから、「4：システム」を選択します。
- ②  (または⑤) キーを押して、「5：バージョン確認」を選択します。

<システム>
 1:システムメニュー
 2:オートパワーオフ
 3:バックライト
 4:レーザー

5:バージョン確認

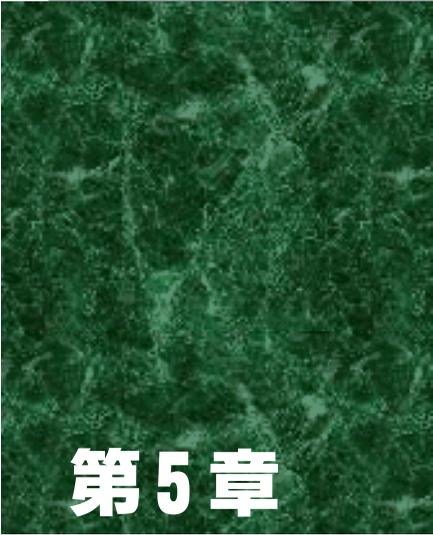
- ③ 表示される情報は、次のとおりです。

AP	標準アプリケーションのバージョン
OS	システムプログラムのバージョン

<バージョン確認>

AP :V1.00
 OS :V1.00

- ④  キーを押すと、前の画面に戻ります。



第5章

FAQ 編



5-1 FAQ（よくある質問と回答）

ここでは、よくある質問やトラブルとトラブルを解決するために確認しなければならない項目と本マニュアルの参照ページを説明します。ここで解決しないトラブルは「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルの「FAX お問い合わせ票/修理依頼票」に必要な事項をご記入の上、弊社までご連絡ください。

Q：電源が入らない

バッテリーカートリッジ（HBC-51）は正しく装着されていますか？
バッテリーカートリッジは充電されていますか？
バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか？

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

Q：画面に何も表示されない

バッテリーカートリッジ（HBC-51）は正しく装着されていますか？
バッテリーカートリッジは充電されていますか？
バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか？
画面のコントラストは正しく設定されていますか？

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になった

バッテリーカートリッジ（HBC-51）は充電されていますか？

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

オートパワーオフ機能が起動していませんか？ ---（P. 4-26）

Q：読取キーを離してもレーザーがしばらく照射されている。 読取キーを押してもレーザーがすぐ消えてしまう。

レーザーの照射時間は正しく設定されていますか？ ---（P. 4-28）

Q：「MANUAL」入力モードで、アルファベットを入力したい

「MANUAL」の際、**(SF)** キーが押されて、画面右下に S (shift キーを押した状態) が表示されていることを確認してください。この状態で、テンキーを押すと各テンキー右下に表示されているアルファベットを入力することができます。(P. 3-6)

「付録 データ入力用バーコード」(付録-2)に掲載されているバーコードを読取ること
で、アルファベットや記号を1文字ずつ入力することができます。

Q：F4 キーを押しても、バックライトが点灯しない

バックライトの点灯時間は正しく設定されていますか？---- (P. 4-27)

Q：現在、いくつのデータを入力したか確認したい

(SF) + **(F2)** キーで、確認できます。---- (P. 3-10)

Q：データ通信ができない

各機器は正しく接続されていますか？

各機器の接続には、必ず専用のケーブルを使用してください。

- ・PC と HLT-700-02 を接続
PC 接続用ケーブル (HOP-C031) を使用
- ・PC と光通信ユニット (HIF-51) を接続
HIF-51 PC 接続用ケーブル (WRS-AXC003A) を使用
- ・光通信ユニット (HIF-51) をデジチェーン接続
デジチェーン接続用ケーブル (STP-C001A) を使用

正しい環境で使用していますか？

通信設定は正しく設定されていますか？

光通信ユニット (HIF-51) とホストコンピュータは正しく接続されていますか？

デジチェーン接続時に、光通信ユニット (HIF-51) の DIP スイッチは正しく設定されていますか？

HLT-700-02 や光通信ユニット (HIF-51) の IrDA インターフェースは汚れていませんか？

IrDA インターフェースが汚れていると正しく IrDA 通信が行われなくなることがあります。乾いた柔らかい布でインターフェースを拭いてください。

「HLT-700-02 ハードウェア/システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された

ドライブ S の空き領域が少ない場合などに表示されます。

ドライブ F にファイルを受信するときは、HLT-700-02 は、ドライブ S 上に受信するファイルと同じだけの作業領域を必要とします。ドライブ S のファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトしました」と表示された

送信または受信待ち状態のままなどで一定時間が経過すると表示されます。

ホストコンピュータの通信ソフトは起動していますか？

通信設定は正しく設定されていますか？

光通信ユニット（HIF-51）とホストコンピュータは正しく接続されていますか？

HLT-700-02 とホストコンピュータは正しく接続されていますか？

HLT-700-02 や光通信ユニット（HIF-51）の IrDA インターフェースは汚れていませんか？

IrDA インターフェースが汚れていると正しく IrDA 通信が行われないことがあります。乾いた柔らかい布でインターフェースを拭いてください。

ホストコンピュータのリソースが不足していませんか？

通信ソフト以外のアプリケーションなどが起動している場合、コンピュータのリソースが不足することで、ファイルの送受信が上手く行われないことがあります。通信に必要なアプリケーションは、できるだけ終了してから再度通信を行ってください。

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください

Q：「アプリケーションエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

アプリケーションが不正な処理を行った場合に表示します。このメッセージが表示された場合、何かキーを押すとアプリケーションは強制終了されます。電源が切れる場合もあります。メッセージの形式はエラーの種類やシステムプログラムのバージョンによって異なります。

システム管理者に相談してください。

Q: 「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示します。ハードウェア、システムプログラム、アプリケーション等の障害、強度の静電気のような外部要因、ユーザーの操作ミスなどの原因が考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、何かキーを押すと電源が切れます。次の起動時に可能な限り自己復旧します。

再度電源を投入してください。

「HLT-700-02 ハードウェア／システムメニュー」ユーザーズマニュアルをご覧ください

Q: 画面に「電池を交換してください」と表示された

装着されているバッテリーカートリッジの残量が少なくなってくるとアプリケーションの実行ができなくなるため、警告を表示します。約1秒間”ピー”と警告音が鳴り、警告 LED が赤に点灯します。

＜ 低電圧警告 ＞

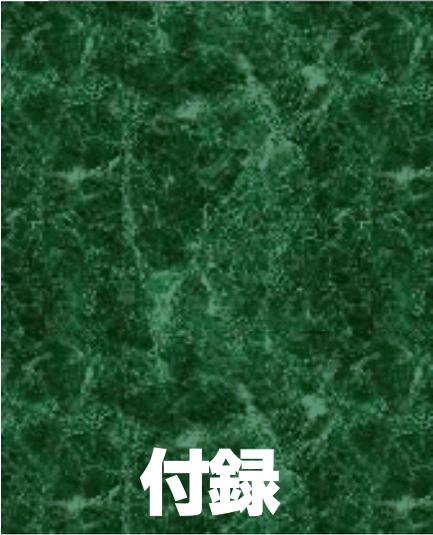
電池を交換
してください

キーを押すと警告画面が解除されますが、約5分後に”ピピピピピ…”と警告音を鳴らしながらメッセージを5秒間表示した後、自動的に電源が切れます。

＜ 低バッテリー ＞

充電してください!

警告が出た時点で速やかに、十分に充電されたバッテリーカートリッジと交換してください。



付録

データ入力用バーコード



付録 データ入力用バーコード

データ入力用バーコードは、マニュアル入力モードにおいてデータを1桁ずつ入力するための専用バーコードです。

SP



!



"



#



\$



%



&



,



(



)



*



+



,



-



.



/



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



:



;



<



=



>



?



@



付録 データ入力用バーコード

A



B



C



D



E



F



G



H



I



J



K



L



M



N



O



P



Q



R



S



T



U



V



W



X



Y



Z



[



¥



]



^



_



~



a



b



c



d



付録 データ入力用バーコード

e



f



g



h



i



j



k



l



m



n



o



p



q



r



s



t



u



v



w



x



y



z



{



|

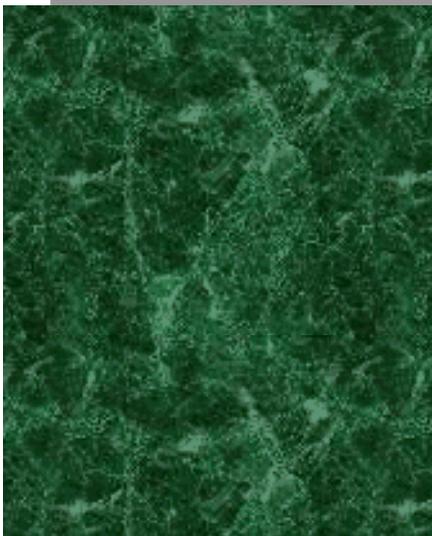


}



~





索引



B

BOX 3-8

D

. DAT 3-8

H

HIF-51 1-2

L

. LST 4-21

O

. OUT 2-7

P

. PMD 3-16, 4-21

. PRM 3-16, 4-21

S

shift キー 3-6

STD_PRM. DAT 3-9

W

Welfer II for Windows 1-3

あ

オートパワーオフ 4-26

か

拡張子 2-8

画面の表示 4-4

起動 3-3

起動パラメータ 4-16

さ

削除 3-7

システム 4-25

システムメニュー 2-3, 4-25

自動切替 4-5

終了 3-3

準備 1-2

初期化ファイル 2-7

ステータス 3-10

設定モード 4-2, 4-3

送信 3-12

た

ダウンロード 4-12, 4-18

データ通信 1-2, 3-12

テンキー 3-4

ドライブ F 2-4

ドライブ S 2-4

トリガー 4-8

な

入力 3-5

入力切替 4-5

入力待ち画面 3-3

は

バージョン 4-29

パイプ 4-7

バックライト 3-15, 4-4, 4-27

パラメータ 4-16

パラメータの切替え 4-17

パラメータの削除 4-20

パラメータの受信 4-18

パラメータファイル 2-7, 4-16

パラメータリスト 4-21

パワーセーブ 4-9

標準アプリケーション 2-2

ファイルの削除 4-15

ファイルの受信 4-12

ファイルの送信 4-10

ファイル名 2-8

ファンクションキー 3-4

ま

マニュアル入力モード 3-6
メモリバックアップ期間 2-5

や

読取キー 3-4

ら

レーザー 4-28
レコード 3-8, 3-14
レコード確認 4-6

このマニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製、転載することをお断りします。

ハンディレーザーリーダー HLT-700-02
標準アプリケーション ユーザーズマニュアル

2003年5月 第3版 発行

株式会社ウェルキャット

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-17-12 IWATA ビル

TEL : 045-474-9800 FAX : 045-474-9815

大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-7-19 第7新大阪ビル

TEL : 06-6307-0502 FAX : 06-6307-0504

Homepage <http://www.welcat.co.jp/>

E-mail info@welcat.co.jp

Copyright©2001 Welcat Inc.

※落丁、乱丁はお取り替えいたします。

M03HLT702AP



株式会社 **ウェルキャット**